

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2019 第3号(1年生版)

1. 東海総体など終了しました！

第2号からここまでにまた多くの大会等がありました。東海総体においてはまたもや本校生徒が大暴れ！テニス部が団体優勝、個人も1～3位を独占すれば、陸上部は3年生の奥林さんが昨年の全国総体優勝記録を上回る東海記録で優勝、2年生の阿部さんとともにインターハイ出場を決めました。ハンド部、バスケット部、空手部も夏のインターハイに向けて課題を見つけるとともに、手ごたえをつかんだ大会になったのではないのでしょうか。商業系でも簿記部が今年も県大会優勝、全国へコマを進めれば、水泳部も団体2位、個人種目でも東海総体に進出しました。

夏休みには各クラブともさらに全国大会等があります。ぜひともベストを尽くしてください。ギターマンドリンクラブは7月に全国コンクールが、野球部は11日からいよいよ夏の大会が始まります。それぞれに出場の皆さん、みんなに熱い戦いを見せてください。

2. 気づきの大切さ

第2号で「気づく」「気配り」の大切さを説明しました。皆さんにとって今はまだ難しいことかもしれませんが、まず、その力をつけるために「周りを観察すること」から始めてみましょう。前回から少しは実践してくれましたか。ではなぜ、「気づく」ことが大切なのでしょう。大きく2つの理由があります。一つは「気づく」ことは人間だけができる能力だからです。21世紀はAI、ロボットとの共存の時代です。「シンギュラリティ（技術的特異点）」と言って、2045年にはAIが人間の能力を超えるといわれています。それはちょうど皆さんが40代前半の働き盛りのころの事になるでしょう。多くの単純な技術だけの仕事はロボットやAIに置き換わってしまう可能性が高いですが、「気づき」「工夫する」細やかな対応を必要とする仕事は人間だけしかできません。そのような力を鍛え、学習し続けることで、将来どのような社会がやってきても「生き抜く」力をつけていくことができます。

二つ目は「気づき」の力をつけることはこれからの社会にもっとも求められる「主体性」を育成することになるからです（これも第2号で触れましたね）。「主体性」とは自らが気づき、問題を発見し、それに対して解決策を考え実行することでした。今後、必要になってくる学習方法において文部科学省は「いかに学ぶか」を「主体的、協働的で深い学び（アクティブラーニング）」と述べています。詳しくはまた述べますが、今回はそのうちの「主体的」について理解してください。ではこの力をつけるために具体的にどのようなことをしていけばいいのでしょうか。「気づき」の力を高めるため「観察する」とともに、ぜひやってほしいのが「多くのいいものを見る」「ホンモノに触れる、ホンモノと交流する」ことです。

高校生にとって（特に現代の高校生にとって）最も弱いところは「様々な経験」が不足していることです。少子化社会になって子どものために親が何でもやってあげてしまう（先生もそうかもしれません）、子どもが失敗しないように何でも指示してしまう、その結果、

受け身の子どもが増えてしまう。気持ちはよくわかります。日本は失敗に対して非常に不寛容な社会ですから。特に SNS が発達した社会では無責任に失敗した人を「たたく」傾向が強くなって、前に出ることを恐れる若者が増えています。親や先生も大切な自分の子どもたちが失敗したり、傷ついたりすることがないように先回りして指示を与えてしまう。結果として自分で気づき考えて行動する機会がなくなってしまう。しかし、高校生も近い将来社会に出ていくわけですから、このような状況は（キャリア教育の発想からも）改善していかなければなりません。今回の教育改革やそれを具体化した新学習指導要領では、皆さんが社会で活躍できるよう「主体性」を向上するための工夫が凝らされています。そのための一つが「探究活動」（みなさんは先取りして「課題研究」として実践しています）と言われるものです。ここでは各自が（あるいはみんなで協働して）課題に気づき、その課題を解決すべく行動する、失敗してもそれを反省して次の行動・実践につなげる。このような取り組みとそれを通じて養われる能力が社会では必要になってきます。「気づき」のヒントを得たり、参考にしたりのためにはもちろん校内において部活動や特別活動、授業等を通してできることもいっぱいありますが、より広い視野で物事を見ることができるようになるには積極的に校外に出て「いいもの」をたくさん見て観察眼や感性を養うことが必要だと私は思います。

前任校では「ホンモノ体験」と称して、外部の本気で何かを成し遂げようとしている「大人」の方々と高校生がコラボして様々な企画や研究を行ってきました。この地域にも有名ではないかもしれないけれど、人々を幸福にしたり、地域を発展させたりするために真剣に取り組んでいる人たちがいっぱいいます。私は皆さんをそんな方たちと触れ合い、交流し、切磋琢磨できる機会をコーディネートしたいと思っています。

1年生の皆さんはまずその基礎的な力をつけるためにこれから紹介していくいくつかのイベントに参加してみてください。ほかの学校の生徒がどのような課題を持って研究に取り組んでいるのか、どのようなプロセスを経てプロジェクトの実現に結びつけているのか。また、それをどのようにプレゼンして聞き手に感動や元気をあたえているのか。それを聞いてぜひ、3年次の「課題研究」の参考にしてください（本校にあっては1, 2年生の間にこれらの経験を積んでいないことが、せつかく素晴らしい教育を行っている中でのウイークポイントになっていると思います）。県教育委員会や四日市市が主催するイベントだけでも結構な数があります。上級生の中には他校生とともに韓国を訪れて親善を深めるプロジェクトに参加する人も出てきています。これから紹介するプロジェクトに積極的に参加して、経験を積み3年生の課題研究などの探究学習につなげてください。

四日市商業の生徒たちは素晴らしい潜在能力（ポテンシャル）を持っています。また、学校が持つ素晴らしい不易の教育も行われています。あとは来たるべき未来社会に適応する資質・能力を身に着け、専門性を持って地域社会に貢献できるように、また優しい気持ち・思いやりの心を持って自分だけでなくみんなが幸せになれる社会を形成できるように「主体性」や「コミュニケーション能力」「思考力」を身に着けて社会に出ていってください。まずは有意義な夏休みを。また9月2日に元気にお会いしましょう。

(7月9日)